

社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会報告

【WHO ICD-11 内科 TAG 内分泌 Working Group】

- ICD-11 へ向けた WHO の取り組みは、2007 年 4 月の WHO 改訂運営会議（Revision Steering Group: RSG）開催に始まりすでに 5 年余が経過した。RSG は①改訂プロセスの監督、分野別専門部会間の連携の調整・助言、②ICD の用途とユーザーのニーズの検討、③分類法及びオントロジーに関する基本原則、④ICD-10（1990 年）から ICD-11（2015 年）への移行のための計画・ツールの立案と開発、等を行ってきた。
- RSG には 15 の分野別専門部会（Topical Advisory Group: TAG）がおかれているが、内科 TAG（菅野健太郎議長：自治医科大学）からの依頼により、2011 年から日本糖尿病学会が内分泌作業部会(Working Group: WG)担当分野のうちの糖尿病・代謝疾患を受け持つこととなり、2011 年度に疾病のヒエラルキー（病名分類階層）を作成した。
- 2012 年度からは、日本内分泌学会との合意により内分泌 WG 全体を担当することとなった。これを受けて本年 8 月に両学会所属の 18 名の委員からなる WHO ICD-11 内科 TAG 内分泌 WG 国内委員会を設置して内分泌疾患ヒエラルキー作成に着手し、9 月には目標の β 版を策定した。今後一般公開されパブリックコメントを受けることになる。
- 2012 年 9 月に東京で内科 TAG の face to face 会議が開催された。WHO から責任者の Dr. Ustun が来日し、改めて WHO ICD-11 策定の意義と全体的な進捗状況について説明した。内分泌 WG の進捗状況は良好であることが評価された。
- 本年度から脇 嘉代（東大）が内分泌 WG 専属の Managing Editor（ME）として正式に就任した。国内 WG 委員の先生方の意見をまとめるとともに、内科 TAG 全体の ME を介して他関連 TAG による分類との整合性をとった。今後は、階層レベル 3 段階までの疾患について、200～300 文字以内で定義を記載する。
- 尚、本活動に関連する諸経費は、日本糖尿病学会と日本内分泌学会とで折半することで合意している。篠原恵美子（ME 補佐、東大）を採用した。

WHO ICD-11 内科 TAG 内分泌 Working Group 議長

田嶋 尚子